

令和 6 年 4 月 19 日

教 育 長 様

(※受付番号 )

研究コース
A グループ研究A
校園コード（代表者校園の市費コード）
732665

代表者 校園名： 大阪市立墨江丘中学校  
 校園長名： 進藤 文代  
 電 話： 6674-3612  
 事務職員名： 鳩田 涼介  
 申請者 校園名： 大阪市立墨江丘中学校  
 職名・名前： 主務教諭 尾松 大義  
 電 話： 6674-3612

## 令和6年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ	人間関係形成功力育成プログラムの開発			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てて記載してください。</p> <p>今日、少子化、核家族化、情報化等が急速に進み、生徒を取り巻く環境は大きく変化している。家庭や地域社会において、人の関わり方を身に付ける機会や直接の体験を通して学ぶ生活体験、自然体験の機会が減少している。このことは、集団の中で人間関係をうまく築くことができない生徒を生み、いじめや不登校等さまざまな問題を引き起こす一因となっていると言われている。さらに集団内の人間関係の希薄さや未熟さによる自己肯定感やコミュニケーション能力の低下が指摘されている。本校は過去3年間仲間づくりの活動を各学年で取り組んできたが、系統だったものになっておらず、探求学習がもたらす本来の結果を生むことができていなかった。そこで今回の研究を通して1年生から3年間を見据えた系統だったプログラムの分析・開発を行う。日々の様々な場面において、人間関係調整力を直接的に育成するための手立ては非常に有効である。様々な集団活動を通して相互にかかわり合い、具体的な課題に取り組む中でよりよい人間関係を構築していく営みを体験させることで、実感として人間関係調整力を獲得することを通して育成を図ることをねらいとする。</p>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>教科書の枠を越えた特定の正解がない学びに挑戦することを通して、生徒に学校を明るく楽しい安心できる居場所であることを認識してもらしながら、論理的に考える力「理数的思考力」、心と心を通わせる力「コミュニケーション能力」、発表する力「プレゼンテーション能力」を高めていく。授業では発表やプレゼンテーションの機会を多くし、外部の大会「クエストカップ」という大会に挑戦する。</p> <p>系統だったプログラムを作成するために、1年次は仲間づくり、人間関係形成を主とした「コラボレーション」、2年次は企業から出されるミッションにグループで取り組み、自分たちの考え方やアイデアをシェアしながら答えを導き出す「プレゼンテーション」、3年次は集大成として、グループのメンバー同士がお互いの個性を活かし、協働して企画・プレゼンテーションをして商品企画に挑戦する「ラーニング」という3年間の見通しを立てたものにする。</p> <p>昨年度まで行っていた仲間づくりプログラムをベースに道徳、総合的な学習の時間を使い実践していく。4~6月は、道徳の時間を活用して、「協力すること」、「互いの意見を尊重し、より質の高い意見に結び付けること」などの価値の学習を、その後の学習の意識付けともあわせて行う。題材としては、一泊移住の取り組みや学級での班活動・各種委員会活動とあわせて、より子どもたちの生活場面に即した内容で行う。</p> <p>7月~9月は、道徳と学活の時間を活用し、「相手の立場に立ち共感的に想像・理解する能力」、「相手の気持ちを尊重しながら自分の意見をきちんと言う自己表現力」の二つの能力の育成を目指す。特に自己表現力の育成においては、対人関係能力を育てるソーシャルスキルとして、自分も他人も大切にする伝え方の一つである「アサーショントレーニング」をロールプレイを用いた方法で実施する。10月以降は、「相手の意見をしっかりと聞き、自分の意見もしっかりと言い、お互いに納得できるちょうどいい所に折り合いをつける技能の育成」を目指す。授業では、課題に対して、班での話し合い、全体での意見交換と進むが、その際、各班から出された意見を分類・整理させながらそれを視覚的にとらえやすい図の中に整理させ、根拠を基に合意を形成していくようなスキルトレーニングの活動体験させる。教育と探求社が提供しているクエストエデュケーションプログラム「ソーシャルレンジ」を実施する。</p> <p>(2)継続研究〔2年目〕 ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>人間関係能力の育成を目指した学校独自のカリキュラムデザインを昨年度から行ってきた。課題研究は、「人間関係形成・社会形成能力（積極的発信能力）」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」を育むことに対しては有効であることが明らかになった。これは、課題研究が定められた期間内に自ら課題を見つけ、グループで調査研究し、それらを文章にまとめ、パワーポイントを活用して発表するといったスケジュール管理も必要な課題解決・発信型の活動であり、グループで協力したり、協議したり、意見の調整を行う等のコミュニケーション活動が少ないからだと推察できる。逆に、協調・協力能力、「自己理解・自己管理能力」を育むためには、コミュニケーション活動が多く含まれる班別協議やクリティカルシンキング・ロジカルシンキングのコミュニケーションスキル研修等は有効であると推察できるが、更に検証が必要である。</p> <p>(3)継続研究〔3年目〕</p>			

研究コース

A グループ研究A

代表校校園コード

732665

代表校園

大阪市立墨江丘中学校

校園長名

進藤 文代

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。 ・教育と探求社と連携を行いクエストエデュケーションの日程・教職員のファシリテーター研修・実施校視察等の調整 4月 ・昨年までの研究経過で課題点を明確にし、課題解決のための仮説設定を行う。 ・学級開きで仲間づくりを目標としたコミュニケーション活動を行う。 ・校外学習に向けた班活動で「ロングタイムドミノ」・「ペーパータワー」を実施する。 5月 ・総合的読解力育成の時間を通して、意見を自由に出し合うアイデアフレームワークを学ぶ。 (ブレインストーミング、マンダラチャート) 6月 ・探究型校外学習の実施【神戸三宮】 ・研究計画を元に出張メンバー、出張日程の決定をする。 8月 ・関西大学人間健康学部のアドベンチャー教育プログラム受講 ・探究学習を中心とした系統だったカリキュラム・デザインができる学校視察 ・関東方面（東京都ドルトン学園他、探究学習重点校）において、課題解決型・探究型学習の視察、研修に参加し伝達講習会を実施する。 9月 ・教育と探求社による教職員研修（知識構成型ジグソー法） ・修学行事前学習（探究型修学旅行：島根県隠岐の島の島おこしプラン作成） ZOOMを使い隠岐の島町役場、島内の4つの中学校のいずれかの学生と交流し情報交換【実態調査】、期間【9月～2月】 ・クエスチョンエックスの実施 10月 ・外部講師を招き論理的思考力（ロジカルシンキング）向上の指導法研修 1月 ・四国方面（神山まるごと高専予定）において、企業と連携したカリキュラムデザインを学び、起業家精神や多角的視点育成の指導体制を学ぶ。 ・外部講師を招きコミュニケーションスキル研修。（クリティカルシンキング） ・クエストエデュケーション教育アンケート収集（生徒・教職員） ・学校アンケートでの効果測定、比較分析 2月 ・探究型校外学習の実施【京都方面】 ・がんばる先生支援研究発表兼教職員研究会でカリキュラムデザインについて研修会実施
5	活動計画	出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。 ・全国〇〇科研究大会 千葉大会参加 ・ICTを活用した〇〇教育の実践者研修会参加 ・授業研究会の指導助言 講師：〇〇大学 〇〇〇〇教授 年4回実施
6	見込まれる成果とその検証方法	(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 変更しない。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">理由 単年で変化・結果が見込まれず1000日計画での生徒の変容を予定しているため</span> <input type="checkbox"/> 変更する。 (2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> 」および、「 <u>教員の資質や指導力の向上</u> 」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください） <b>【見込まれる成果1】</b> <input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上 大阪市立墨江丘中学校教職員授業力向上を行う。 授業の在り方研究研修、伝達研修を行い生徒の感情にアプローチしたコーチング等を用いた授業展開の研究を行う。  《検証方法》 学校アンケートより、保護者・生徒アンケートの分かりやすい授業の評価ポイントを昨年度より（生徒アンケート）平均2ポイント以上向上する。（学校アンケート）  <b>【見込まれる成果2】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上 探究学習を通して、友達と協力して学習や活動に取り組むことで、人間関係形成能力の必要性に気づく。  《検証方法》 プログラム実施前後のアンケートより、子どもの学びに関する項目設定を行い、意見の違う人とも、わかり合えるまで話し合う必要があるという肯定的ご回答を85%以上肯定的ご回答を目指す。

6	見込まれる成果とその検証方法	<p><b>【見込まれる成果3】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>探究学習を通して、友達が話すことや聞くことの大切さを知ることによって人間関係形成能力が身に付く。</p> <p>『検証方法』</p> <p>プログラム実施前後のアンケートより、「協働的な学び」に関する項目設定を行い、自分の考えたことを意見交換したり、議論したりして新たな考えに気づき、学習を深めることに役立ったという肯定的回答を85%以上肯定的回答を目指す。</p> <p><b>【見込まれる成果4】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上  <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>対話力・コミュニケーション能力の向上  生徒の興味関心を高め、ICT機器の操作能力の向上を行う。</p> <p>『検証方法』</p> <p>プログラム実施前後のアンケートより、子どものICT機器使用に関する項目設定を行い、グループで活動したり話し合ったりするときなどにタブレットを使うことは、友達のいろいろな考え方を知り、学習を深めることに役立ったという肯定的回答を85%以上肯定的回答を目指す。</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和7年2月21日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="500 1138 1602 1217"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 2 月 10 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立墨江丘中学校</td> </tr> </table> <p>◆waku<sup>x2</sup>.com-bee掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="500 1297 1117 1376"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 2 月 14 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 7 年 2 月 10 日	場所	大阪市立墨江丘中学校	日程	令和 7 年 2 月 14 日
日程	令和 7 年 2 月 10 日	場所	大阪市立墨江丘中学校					
日程	令和 7 年 2 月 14 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本研究は、社会的問題でもある不登校、学校の在り方が問われる現在において、先進的研究活動の1つである。社会的に少子化が続く中、不登校率は年々増加傾向にあり、学校や子どもの生活様式の在り方が課題である。本研究は、子どもが生活していくうえで発達段階において、さまざまな経験、体験を通じて獲得する「人間形成力」をテーマに研究を進める計画である。学力の向上だけではなく、非認知的能力の要素が高い「学習力」の向上に向けて、学校教育のカリキュラム、行事などの学校生活の必要性を考え、提示するとともに、管理職として、大阪市の人材育成の観点から学校教育のカリキュラムマネジメント力、教師力の向上にも本研究を選定いただき進めていきたいと思っている。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>継続2年目は、本校の課題である不登校減少を目指し、子どもの発達段階に合わせて、さまざまな経験、体験を通じて獲得する「人間形成力」をテーマに研究を更に進めていきたい。学力向上だけでなく、非認知的能力の要素が高い「学習力」の向上に向けて、学校教育のカリキュラム、行事などの学校生活の必要性を考え、大阪市の人材育成の観点から学校教育のカリキュラムマネジメント力、教師力向上に本研究を推進していきたい。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						